

9.

晩夏 吾妻連峰の主峰一切経山へ

2001. 8. 20. azmas1.htm by M.Nakanishi



一切経山への直登登山路

一切経山登山口
浄土平

8月20日 月曜日お盆休みがあけの平日の休み 福島県の吾妻連峰一切経山へ行ってきました。

実は「栗駒山」へ行く予定で荷物パックしたのですが、台風の前駆で関東から東北「雨」との予報。

あきらめて、荷物を解いたが、朝眼を覚ますと雲は多いものの日が差している。

時間的には栗駒山へ出掛けるのは無理とあきらめ、雨がふってもまあ、逃げ道のある浄土平まで行ってみようと朝7時過ぎ

ぎ 上野から東北新幹線に飛び乗り、福島で下車。

ここまで来ると予想通り晴れてはいるものの吾妻連峰・安達太良山は雲の中。

台風の前と競争で、霧の中を歩く覚悟を決め、浄土平への定期観光バスに乗せてもらう。お客は浄土平から裏磐梯へ行く人達全部で5名ばかり。

もう30数年ぶりになる。新婚の二人して裏磐梯の紅葉を目当てに吾妻・磐梯スカイラインをバスで通って以来の浄土平行。その時も霧で浄土平は雪が舞い、寒さに震え上がり、吾妻小富士の横で震えながら写真を撮ってそのままバスに乗り込んだ記憶がかすかに残っている。もう一度是非行ってみたいと思いながらの浄土平である。

1. 浄土平から 一切経山へ

福島から約1時間 霧の中の吾妻スカイラインをバスはどんどん登ってゆく。まじかにガイドさんの説明を聞きながらのバスも久しぶり。まあ 霧の山行きはしょっちゅうと見えて バスガイドさんは画用紙に書いた山の絵を片手に一生懸命周りの見えない景色を説明している。
 なんせ 5人なので寝てる訳に行かない。

突然 薄日がもれだし、アッというまに予想だにできなかったどこまでも続く雲海とその上に乗かって吾妻連峰の山々が見える。雲海の上は快晴。素晴らしい雲海を見ながら浄土平に到着。



何とついている事か・・・浄土平を真中に円錐形の吾妻小富士もこれから登る一切経山も青空を背に立っている。ごつごつとした岩肌は一切経山がどっしりとそびえている。もう楽勝のハイキング。頂上でのどこまでも広がる雲海の期待にまっすぐ登山道に入っていった。



一切経山 登山道で【1】



一切経山 登山道で【2】

2. 一切経山の頂上で ・ 雲海に浮かぶ峰々 360度の展望 ・



一切経山 山頂 背後は会津磐梯山

一切経山の頂上からは予想だにできなかった雲海の上の360度の展望。だだっぴろくてつかみ所のない頂上ではあるが、その眺望は素晴らしい。

本当に今年については思いました。

毎度毎度雨の心配しながらの山行ながら登るといつもgoodな展望。その中でも今日は特別。北の山形県日本海側には飯豊・朝日連峰出羽三山・月山そして遠く鳥海山までが雲の上に浮かび、頂上から切れ落ちた眼下には紺碧の水をたたえた神秘的な五色沼が見えている。東にはどこまでも続く雲海の上に蔵王連峰がくっきりと浮かんでいる。



雲海 2001.8.20. 一切経山 山頂で

また今登ってきた南側には吾妻小富士のお釜がくっきりと見えその横から西へグルッと安達太良山から吾妻連峰の峰々を取り囲んでいる。その吾妻連峰の峰々の手前には前庭のごとく広い浄土平・酸ヶ平・姥が原の湿原が緑の絨毯を敷き詰めたように広がり、やっぱり紺碧の水をたたえた鎌沼が見え、その奥には会津磐梯山がその特徴的な山体を雲の中に浮かび上がらせている。

尾瀬やアルプス雲ノ平の湿原がピカイチと思っていたが、この一切経山の麓に広がる湿原もそれに負けない神秘的で素晴らしい。この湿原群を前にしてその奥にそびえる会津磐梯山の姿は実に神々しい。福島から約2時間でこの景色に出会えるとはビックリ。

紺碧の五色沼の向こうに浮かぶ山形県側の山々が気になるのか 頂上に登って来た人達がみんな北の斜面へ寄ってきて 磁石と地図片手にわいわい山の品定め。平日なので 実にゆっくり山上の景色を楽し

めました。また、今日のはじめてくっきりと雲海に浮かぶ出羽三山・月山を憧れを持って見ました。

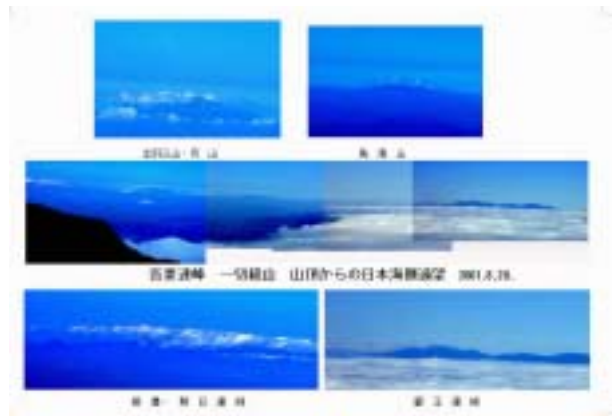


3. 360度 雲海の上の眺望

3.1. 北 山形県日本海側の眺望

眼下に紺碧の五色沼 遠くに飯豊・朝日 出羽三山 鳥海山が雲海の上に





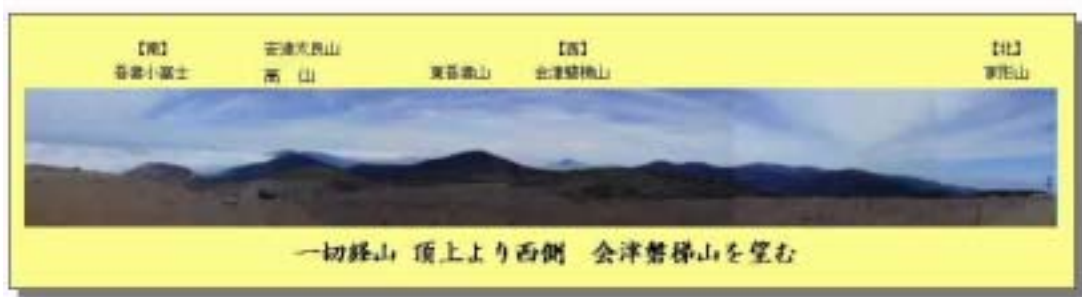
3.2. 東 宮城県 雲海の上に浮かぶ蔵王連峰の峰々



3.3. 南から西へ 吾妻連峰の峰々とその背後に安達太良・磐梯の峰々



3.4. 西 吾妻連峰の背後に神々しくそびえる会津磐梯山



4. 頂上からお花畑が広がる酸ヶ平・鎌沼・姥ヶ原へ

頂上からは登って来た岩尾根の直登ルートからはずれ、西に酸ヶ平・鎌沼の山に囲まれた湿原へ下るルートをとって、湿原の中へ。

ゆっくりと湿原の高山植物を楽しみながらの雲上散歩。

残念ながら 東吾妻山へ登っているとバスの時間との競争になりそうなので今回はやめ。ゆったりと姥ヶ原の真中にひとり座り込んで周りの景色を楽しむ。本当に空気がうまいと実感できる。



鎌沼の向こうに登って来た一切経山がどっしりと構えている。決して高いやまではないが、実に存在感のある山である。



晩夏 吾妻連峰

一切経山周辺の高山植物



浄土平からはバスで土湯峠を通過して土湯温泉へ。 遠くに浮かんでいた安達太良の山塊が実に大き組みえる。次の機会には安達太良山へ。 霞みの中にぼっと光る湖に囲まれた磐梯山が一層高くそびえている。 麓まで一機に下って土湯温泉で下車。

透明なお湯であるが、ここの湯も熱い。あらためて磐梯・吾妻の山々が活火山である事を実感。 そういえば、少し前にこの磐梯・吾妻連峰で群発地震が増加し 噴火が心配された事があった。 山から降りて 温泉につかるとホント 極楽 極楽。



土 湯 温 泉



東北新幹線 福島駅から 吾妻連峰

福島駅のプラットフォームからは夕日の中に やっぱりその山容の上半分を雲の中に隠している吾妻連峰が見られた。ここからは やっぱり あの雲上の素晴らしい景色は想像もつかない。 どうやら 台風は遅れているみたいである。

2001.8.20. 夕暮れの福島 東北新幹線の車窓から
by M. Nakanishi

晩夏 吾妻連峰の主峰一切経山へ
【完】